

EAC

平成30年度
富士山麓外来植物等調査業務委託

報 告 書
(抜粋)

平成31年3月

株式会社 環境アセスメントセンター

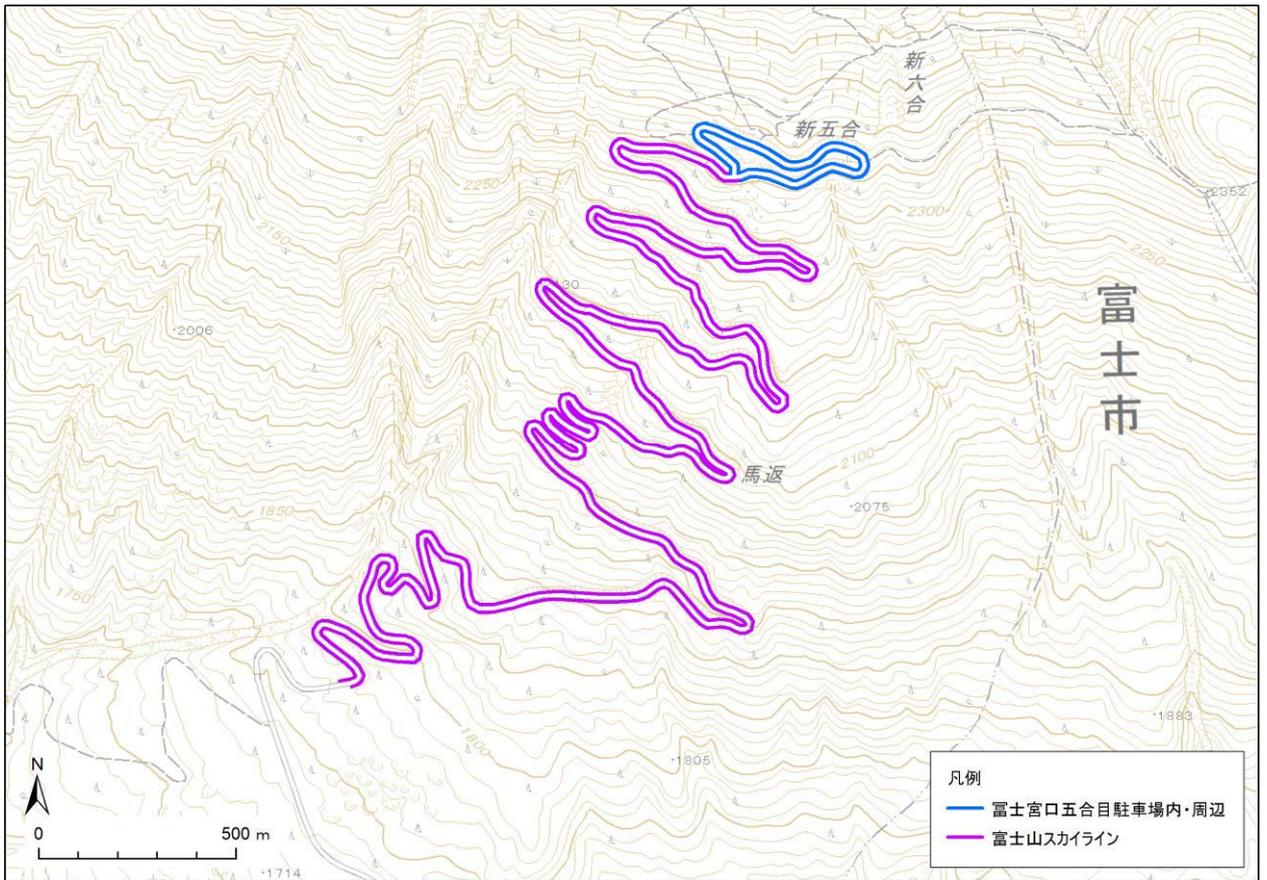


図 1.4.2 調査場所位置図 (①富士宮口登山道沿い標高 2,500m 付近から富士山スカイライン)

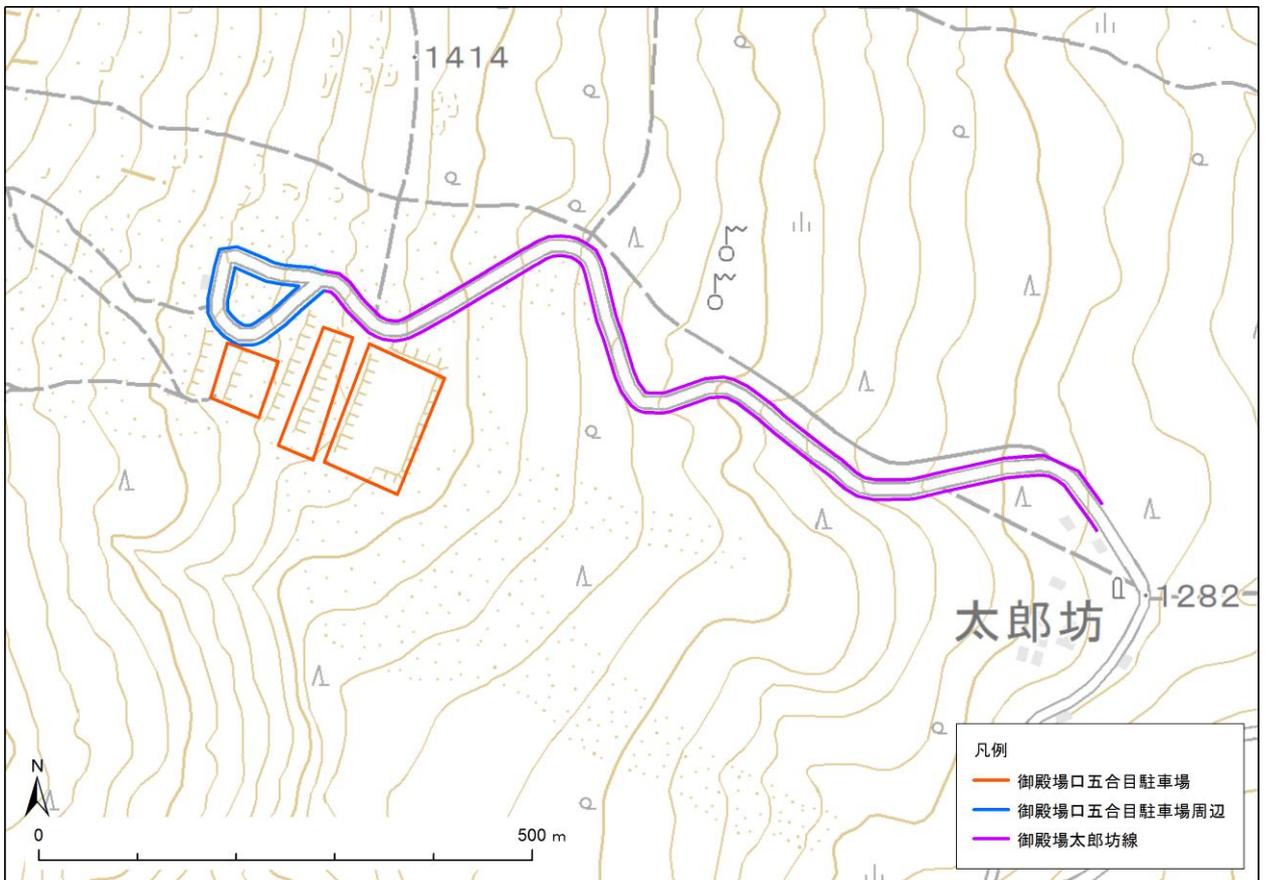


図 1.4.3 調査場所位置図 (②御殿場口登山道沿い標高 1,500m 付近から御殿場太郎坊線)

表 1.6.2 外来植物選定基準

法律等	カテゴリ		
特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（平成 16 年 6 月 2 日法律第 78 号）（最終改正：平成 26 年 6 月 13 日 法律第 69 号）【外来生物法】	特定外来生物 （最終更新：平成 30 年 4 月 1 日）	外来生物（海外起源の外来種）であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるもの。	
我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（環境省報道発表資料「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（生態系被害防止外来種リスト）」の公表について（お知らせ）、平成 27 年 3 月 26 日） 【生態系被害防止外来種リスト】	定着予防外来種	侵入予防外来種	国内に未侵入の種。特に導入の予防、水際での監視、バラスト水対策等で国内への侵入を未然に防ぐ必要がある。
		その他の定着予防外来種	侵入の情報はあるが、定着は確認されていない種。
	総合対策外来種	緊急対策外来種	「外来種被害防止行動計画（環境省・農林水産省・国土交通省, 2015）」における対策の優先度の考え方（注 1）に基づき、被害の深刻度に関する基準①～④のいずれかに該当することに加え、対策の実効性、実行可能性として⑤に該当する種。特に緊急性が高く、特に各主体がそれぞれの役割において、積極的に防除を行う必要がある。
		重点対策外来種	「外来種被害防止行動計画（環境省・農林水産省・国土交通省, 2015）」における対策の優先度の考え方に基づき、被害の深刻度に関する基準として①～④のいずれかに該当する種。甚大な被害が予想されるため、特に、各主体のそれぞれの役割における対策の必要性が高い。
		その他の総合対策外来種	/
産業管理外来種	産業又は公益的役割において重要であり、現状では生態系等への影響がより小さく、同等程度の社会経済的効果が得られるというような代替性がないため、利用において逸出等の防止のための適切な管理に重点を置いた対策が必要な外来種。利用にあたっては種ごとに示す利用上の留意事項（注 2）に沿って適切に管理を行うことを呼びかけるもの。		

注 1) 緊急対策外来種、重点対策外来種における対策の優先度の考え方

(被害の深刻度)

- ①生態系に係る潜在的な影響・被害が特に甚大
- ②生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い
- ③絶滅危惧種等の生息・生育に甚大な被害を及ぼす可能性が高い
- ④人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対し甚大な被害を及ぼす

(対策の実効性、実行可能性)

- ⑤防除手法が開発されている、又は開発される見込みがある等、一定程度の知見があり、対策の目標を立て得る。

注 2) 利用上の留意事項

産業管理外来種については、利用の回避・抑制、侵略性のない代替種の開発・普及又はリスクを低減若しくは抑制するための管理の実施・普及が期待される。掲載種には種毎に利用状況や利用上の留意事項を記載しており、産業管理外来種については利用上の留意事項に沿って適切な管理を行うことが期待される。

2.2 外来植物

2.2.1 結果概要

本調査の対象の外来植物は、4科9種3,739個体を確認した。確認状況を表2.2.1、図2.2.1に示す。このうち、特定外来生物はオオキンケイギク1種で、生態系被害防止外来種リスト掲載種は、オオキンケイギク、セイヨウタンポポ（生態系被害防止外来種リストの外来タンポポ種群に該当する）、ヒメスイバ、ハルザキヤマガラシ、ヒメジョオン、ハルガヤ、カモガヤ、ナギナタガヤ、オオアワガエリの計9種であった。

セイヨウタンポポは、確認区画数が最も多く、ほぼ全ての調査地で生育を確認した。ハルザキヤマガラシは、富士山スカイラインでのみで、オオキンケイギク、ヒメスイバ、ナギナタガヤは御殿場口五合目駐車場第1～3でのみ確認した。

また、ハルザキヤマガラシ、カモガヤ、オオアワガエリは高山帯に近い標高2,300mにおいて生育が確認された。標高が高くなるに伴い、気温の低下や、生育期間の減少など環境が厳しくなるが、これら3種は耐寒性があるため、低標高域から高標高域まで生育が可能と考えられる。

表2.2.1 外来植物確認状況

科名	種名	外来生物法 注1)	生態系被害防止 注2)	確認数量 [区画数] <地点数> (個体数)												合計
				調査場所①				調査場所②								
				富士宮口五合目 目駐車場内・周辺		富士山スカイ ライン		御殿場口五合 目駐車場			御殿場口五合 目駐車場周辺		御殿場太郎坊 線			
				内回り	外回り	上り線	下り線	第1	第2	第3	内回り	外回り	上り線	下り線		
タデ	ヒメスイバ	-	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	[1] <1> (15)	-	-	[1] <1> (15)	
アブラナ	ハルザキヤマ ガラシ	-	その他	-	-	-	[1] <3> (41)	-	-	-	-	-	-	-	[1] <3> (41)	
キク	オオキンケイ ギク	特定	緊急	-	-	-	-	-	-	-	-	-	[1] <1> (1)	-	[1] <1> (1)	
キク	ヒメジョオン	-	その他	-	-	[5] <5> (9)	[2] <2> (2)	<1> (1)	-	-	[1] <7> (14)	-	[4] <10> (35)	[4] <5> (9)	[16] <30> (70)	
キク	セイヨウタン ポポ注3)	-	重点	[7] <48> (352)	[9] <20> (32)	[66] <318> (926)	[61] <264> (639)	<1> (1)	<1> (2)	-	[1] <1> (1)	[2] <4> (4)	[8] <18> (27)	[10] <21> (45)	[164] <696> (2,029)	
イネ	ハルガヤ	-	その他	-	-	-	-	-	<4> (310)	<2> (2)	-	-	-	-	<6> (312)	
イネ	カモガヤ	-	産業	[1] <1> (3)	-	[7] <13> (98)	[1] <1> (10)	-	<4> (7)	-	-	-	-	-	[9] <19> (118)	
イネ	ナギナタガヤ	-	産業	-	-	-	-	<1> (50)	<1> (100)	<7> (590)	-	-	-	-	<9> (740)	
イネ	オオアワ ガエリ	-	産業	-	-	[17] <28> (338)	[12] <14> (75)	-	-	-	-	-	-	-	[29] <42> (413)	
4科	9種	1種	9種	[8] <49> (355)	[9] <20> (32)	[95] <364> (1,371)	[77] <284> (767)	<3> (52)	<10> (419)	<9> (592)	[2] <8> (15)	[3] <5> (19)	[13] <29> (63)	[14] <26> (54)	[221] <807> (3,739)	

注1) 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平成16年6月2日法律第78号)

特定：特定外来生物

注2) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)(平成27年3月26日公表)

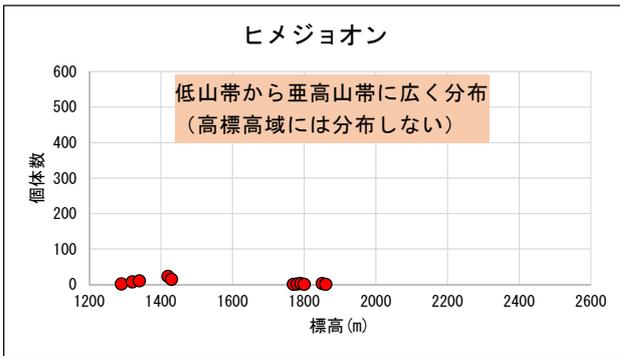
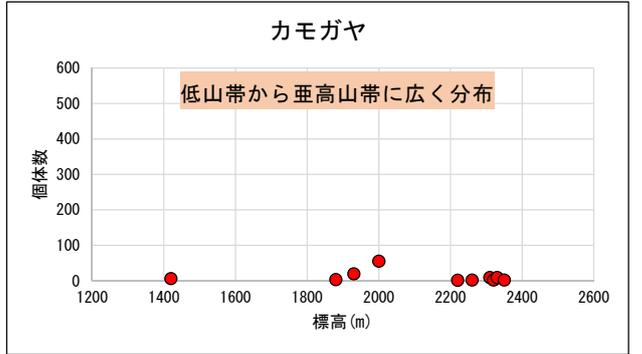
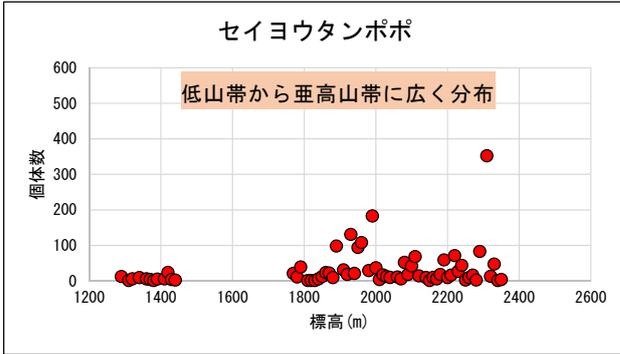
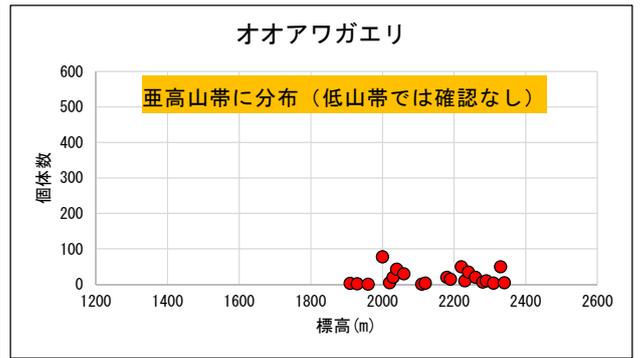
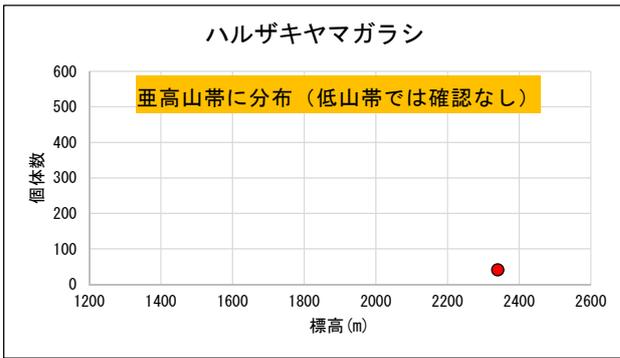
緊急：総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種) 緊急対策外来種

重点：総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種) 重点対策外来種

その他：総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種) その他の総合対策外来種

産業：適切な管理が必要な産業上重要な外来種(産業管理外来種)

注3) セイヨウタンポポは生態系被害防止外来種リストの「外来性タンポポ種群」に該当する。



富士山南面 (静岡県側) の垂直分布

低山帯 : 標高 600~1,500m
 亜高山帯 : 標高 1,500~2,500m
 高山帯 : 2,500m 以上

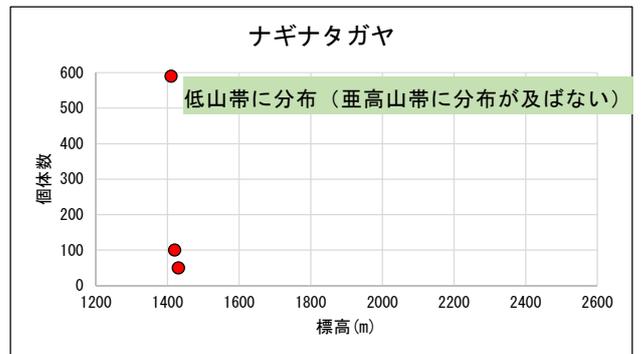
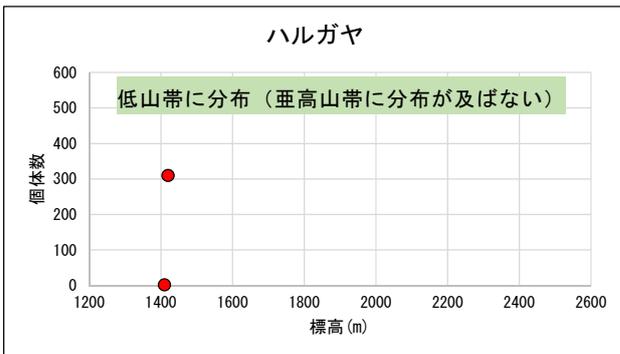
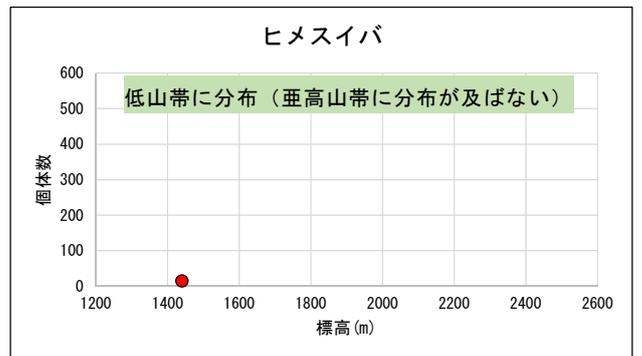
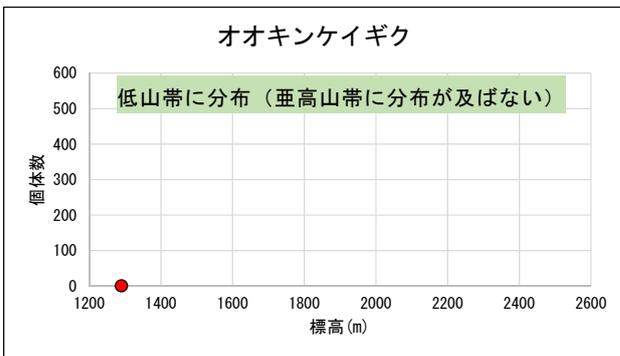


図 2.2.1 外来植物の標高別確認個体数

2.2.2 種ごとの確認状況

外来植物の種ごとの確認状況を以下に示す。外来植物の解説については、主に環境省ホームページにおいて公表されている「生態系被害防止外来種リスト選定の根拠情報」より引用したが、必要に応じて「要注外来生物に係る情報及び注意事項（環境ホームページ）※要注外来生物リストは平成27年3月26日をもって発展的に解消されている」や図鑑等から引用し整理した。

(1) 特定外来生物、総合対策外来種（緊急対策外来種）

1) オオキンケイギク（キク科）

オオキンケイギクの種の解説を以下に示す。

表 2.2.2 種の解説（オオキンケイギク）

種名等 ¹⁾	オオキンケイギク（キク科） 別名・流通名：コレオプシス（ハルシャギク属の総称）
カテゴリ	外来生物法：特定外来生物 生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種（緊急対策外来種）
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	IV. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の要件 ¹⁾	(被害の深刻度) ①生態系に係る潜在的な影響・被害が特に甚大である。 ③絶滅危惧種等の生息・生育に甚大な被害を及ぼす可能性が高い。 (対策の実効性、実行可能性) ⑤防除手法が開発されている、又は開発される見込みがある等、一定程度の知見があり、対策の目標を立て得る。
特に問題になる地域や環境 ¹⁾	河原の固有種の生育地。
原産地・分布 ¹⁾	北アメリカ原産。世界各地で利用。日本へは明治中期に渡来。北海道～九州、琉球、小笠原に分布。
特徴 ²⁾	多年草。花期は5-7月。頭状花は直径5-7cm、舌状花は黄橙色で花冠の先は不同に4-5裂する。筒状花も同じ色で花床に細長い鱗片がある。総苞片は2列につく。高さ30-70cmで、束生する。 茎葉は対生または時に一部互生し、狭倒披針形。根生葉は花時にも残り、長い柄があり、3-5小葉に分裂する。両面とも粗い毛がある。
生育環境等 ²⁾	温帯に分布する。路傍、河川敷、線路際、海岸など、日当たりの良い所に生育する。
影響 ²⁾	河原で繁茂し、河原特有のカワラサイコやカワラナデシコなどの在来種と競争し、駆逐する事例が国内で見られている。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>
環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 2) 特定外来生物の見分け方（同定マニュアル） <植物>
環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/manual.html>)

オオキンケイギクは、御殿場太郎坊線の上り線で、1区画1地点1個体を確認した。確認地点は「太郎坊ブルドーザー基地」の車道出入り口付近で、周辺にはヤマハンノキ、イネ科の草本類が生育する林縁部の草地であった。

オオキンケイギクは、一度定着すると在来の植物を駆逐するなど、生態系に重大な影響をおよぼすおそれがある植物である。このため、オオキンケイギクの分布拡大を防止するため、植生保全対策が必要と判断し、7月現地調査報告時に静岡県自然保護課へ報告した。

表 2.2.3 オオキンケイギク確認結果

科名	種名	外来生物法 注1)	生態系 被害防 止注2)	確認数量 [区画数] <地点数> (個体数)												
				富士宮口五合 目駐車場内・周辺		富士山スカイ ライン		御殿場口五合 目駐車場			御殿場口五合 目駐車場周辺		御殿場太郎坊 線		合計	
				内回り	外回り	上り線	下り線	第1	第2	第3	内回り	外回り	上り線	下り線		
キク	オオキンケイ ギク	特定	緊急	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	[1] <1> (1)	-	[1] <1> (1)

注1) 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平成16年6月2日法律第78号)

特定: 特定外来生物

注2) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)(平成27年3月26日公表)

緊急: 総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種) 緊急対策外来種

表 2.2.4 オオキンケイギク確認状況



御殿場太郎坊線上り線区画 No. 10

(平成30年7月18日撮影)

御殿場太郎坊線上り線区画 No. 10

(平成30年7月18日撮影)

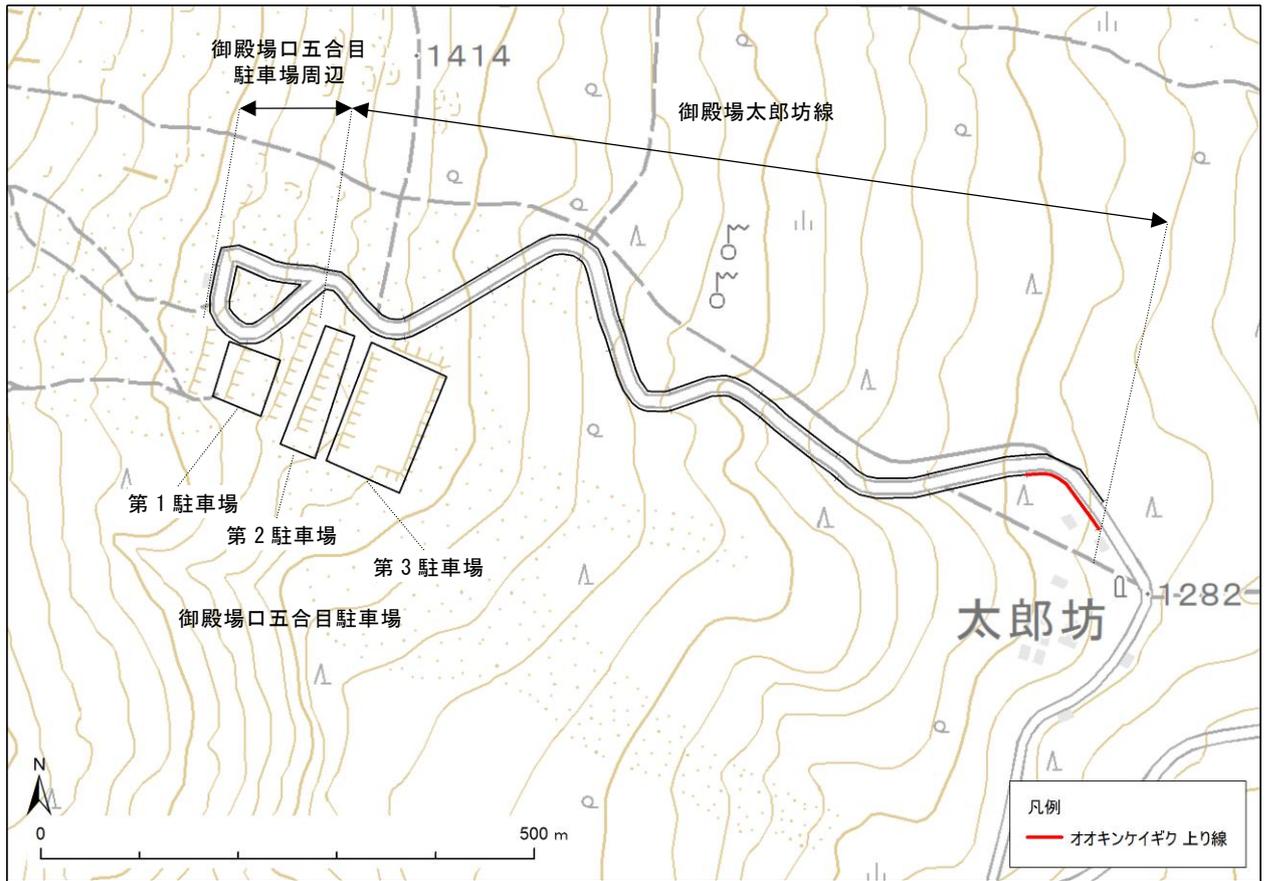


図 2.2.2 オオキンケイギクの確認位置図 (②御殿場口登山道沿い標高 1,500m 付近から御殿場太郎坊線)

(2) 総合対策外来種（重点対策外来種）

1) セイヨウタンポポ（キク科）

セイヨウタンポポの種の解説を以下に示す。

表 2.2.5 種の解説（セイヨウタンポポ）

種名等 ¹⁾	セイヨウタンポポ（キク科） 生態系被害防止外来種リストにおける種名：外来性タンポポ種群
カテゴリ	生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種（重点対策外来種）
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	I. 生態系被害のうち交雑が確認されている、またはその可能性が高い。 II. 生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、またはその可能性が高い。 IV. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の要件	(被害の深刻度) ①生態系被害に係る潜在的な影響・被害が特に甚大である。 ②生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。 ③絶滅危惧種等の生息・生育に甚大な被害を及ぼす可能性が高い。
特に問題になる地域や環境 ¹⁾	自然草原や高山
原産地・分布 ¹⁾	ヨーロッパ原産。世界中に分布する。国内へは1940年に北海道に渡来。北海道～九州、琉球、小笠原に分布する。
特徴 ³⁾	キク科の多年草で、高さは10-40cm。花期は3-5月。単為生殖により結実する。瘦果は風、雨、動物、人間などにより伝播される。根茎切片による繁殖力は強く、どの部分の切片からも出芽する。
生育環境等 ¹⁾	市街地、道端、空き地、畑地、牧草地、芝地、樹園地、川岸、山地、高山の駐車場まで生育する。
影響 ³⁾	繁殖力が強く、国立公園内の亜高山帯等の自然性の高い環境にも侵入し、在来種との競合のおそれがある。在来種との雑種が全国的にみられ、遺伝的攪乱が既に広く起こっていることが確認されている。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>
環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 3) 要注意外来生物リスト 要注意外来生物に係る情報及び注意事項 <植物>
環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/caution.html>)

セイヨウタンポポは、富士宮口五合目駐車場内・周辺で 16 区画、68 地点 384 個体、富士山スカイラインで、127 区画 582 地点 1565 個体、御殿場口五合目駐車場で 2 地点 3 個体、御殿場口五合目駐車場周辺で 3 区画 5 地点 5 個体、御殿場太郎坊線で 18 区画 39 地点 72 個体、計 164 区画 696 個体 2029 個体を確認した。セイヨウタンポポは、すべての調査場所に広く分布し、個体数も多かった。

確認地点の環境はアスファルト舗装の隙間、石垣、道路脇の草地であった。6 月、7 月、9 月の調査で開花・結実を確認した。

表 2.2.6 セイヨウタンポポ確認結果

科名	種名	外来生物法 注1)	生態系被害防 止注2)	確認数量 [区画数] <地点数> (個体数)											
				富士宮口五合目駐車場内・周辺		富士山スカイライン		御殿場口五合目駐車場			御殿場口五合目駐車場周辺		御殿場太郎坊線		合計
				内回り	外回り	上り線	下り線	第1	第2	第3	内回り	外回り	上り線	下り線	
キク	セイヨウタンポポ注3)	-	重点	[7] <48> (352)	[9] <20> (32)	[66] <318> (926)	[61] <264> (639)	<1> (1)	<1> (2)	-	[1] <1> (1)	[2] <4> (4)	[8] <18> (27)	[10] <21> (45)	[164] <696> (2029)

注1) 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平成16年6月2日法律第78号)

特定：特定外来生物

注2) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)(平成27年3月26日公表)

重点：総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種) 重点対策外来種

注3) セイヨウタンポポは生態系被害防止外来種リストの「外来性タンポポ種群」に該当する。

表 2.2.7 セイヨウタンポポの確認状況



富士山スカイライン上り線区画 No. 66
(平成30年6月13日撮影)



富士山スカイライン上り線区画 No. 80
(平成30年6月13日撮影)



御殿場太郎坊線上り線区画 No. 1
(平成30年6月13日撮影)



御殿場太郎坊線上り線区画 No. 1
(平成30年6月13日撮影)

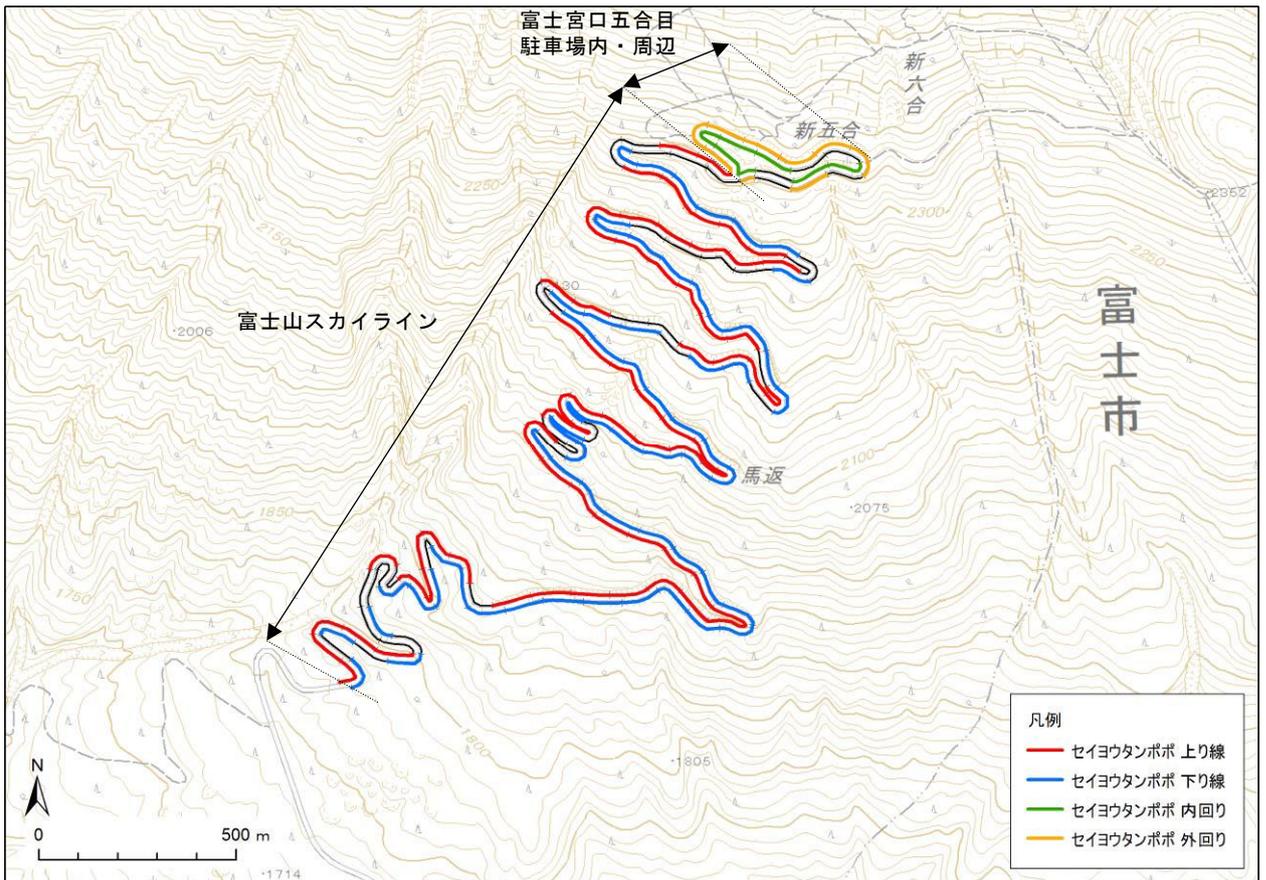


図 2.2.3 セイヨウタンポポの確認位置図 (①富士宮口登山道沿い標高 2,500m 付近から富士山スカイライン)

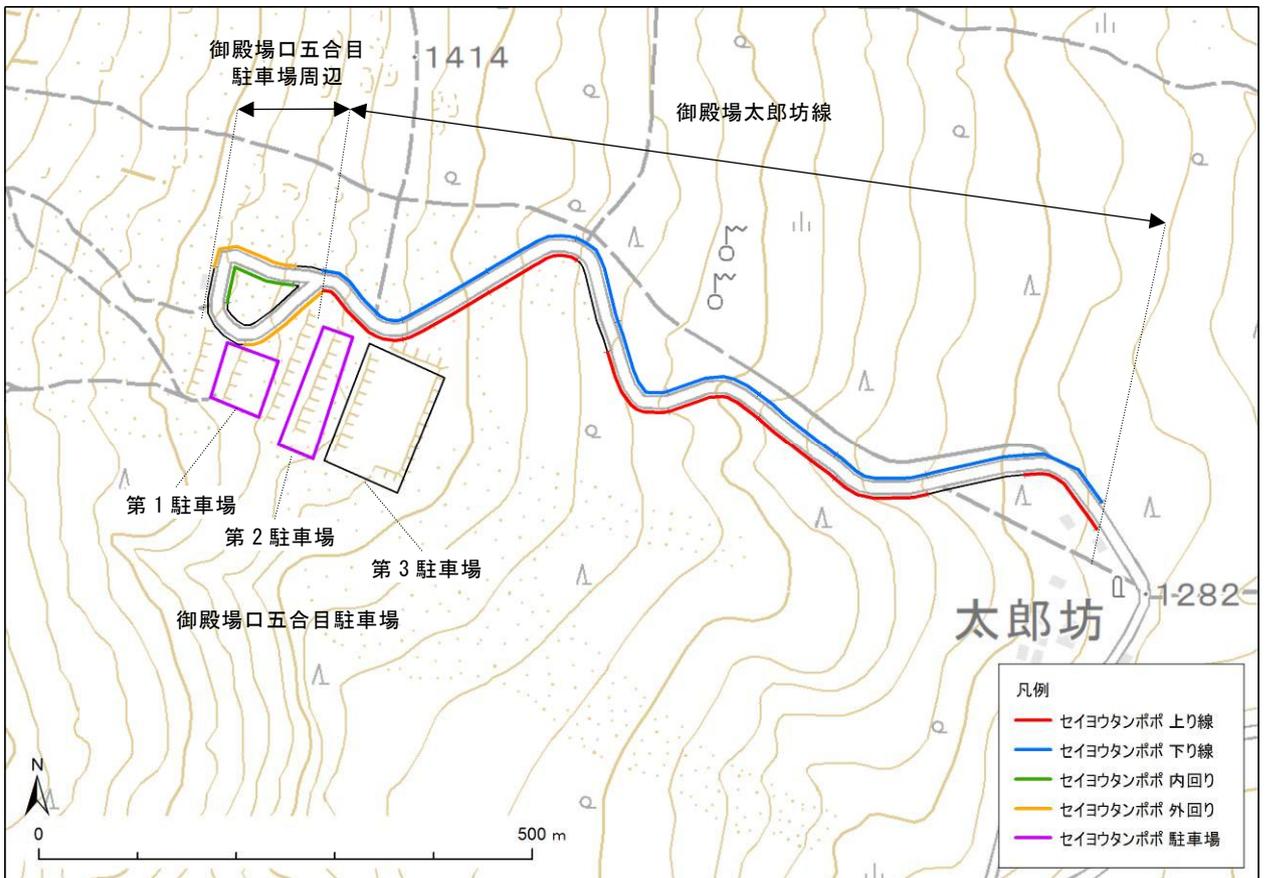


図 2.2.4 セイヨウタンポポの確認位置図 (②御殿場口登山道沿い標高 1,500m 付近から御殿場太郎坊線)

(3) 総合対策外来種（その他の総合対策外来種）

1) ヒメスイバ（タデ科）

ヒメスイバの種の解説を以下に示す。

表 2.2.8 種の解説（ヒメスイバ）

種名等 ¹⁾	ヒメスイバ（タデ科） 別名・流通名：-
カテゴリ	生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種（その他の総合対策外来種）
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	IV. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。 V. 生態系被害のほか、人体や経済・産業へ幅広く被害を与えており、かつ分布拡大・拡散の可能性もある。
対策優先度の要件 ¹⁾	
特に問題になる地域や環境 ¹⁾	海岸砂浜、山地草原
原産地・分布 ¹⁾	ヨーロッパ原産。ヨーロッパ、アジア、アフリカ、南北アメリカ、オセアニアに分布。温帯～寒帯を中心に分布し、熱帯～亜熱帯の河内にも広がる。日本へは明治初期に渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球に分布する。
特徴 ^{1), 5)}	多年草。高さは50cm。花期は4-7月。種子と根茎により繁殖する。種子の伝播は風、雨、動物等による。種子に休眠性がある。アレロパシー作用がある。シュウ酸を含む。
生育環境等 ¹⁾	芝地、牧草地、樹園地、路傍、荒地などに生育する。ときに亜高山帯まで侵入する。日当たりの良い湿地～半湿地を好む。pHの低い所に適応する。日陰地では生育が悪い。
影響 ¹⁾	河川で増加しており、砂浜への侵入が危惧されている。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>
環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 5) 清水建美(2003)日本の帰化植物, 平凡社.

ヒメスイバは、御殿場口五合目駐車場周辺外回りで1区画1地点15個体を確認した。確認地点の環境は道路脇の火山砂礫の裸地で、植被は少なく周辺にはイタドリやフジアザミなどが疎らに生える程度であった。7月調査時に開花に開花・結実を確認した。

表 2.2.9 ヒメスイバ確認結果

科名	種名	外来生物法 注1)	生態系 被害防 止注2)	確認数量 [区画数] <地点数> (個体数)												
				富士宮口五合 目駐車場内・周辺		富士山スカイ ライン		御殿場口五合 目駐車場			御殿場口五合 目駐車場周辺		御殿場太郎坊 線		合計	
				内回り	外回り	上り線	下り線	第1	第2	第3	内回り	外回り	上り線	下り線		
タデ	ヒメスイバ	-	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	[1] <1> (15)	-	-	[1] <1> (15)

注1) 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平成16年6月2日法律第78号)

注2) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)(平成27年3月26日公表)

その他: 総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種) その他の総合対策外来種

注3) セイヨウタンポポは生態系被害防止外来種リストの「外来性タンポポ種群」に該当する。

表 2.2.10 ヒメスイバの確認状況



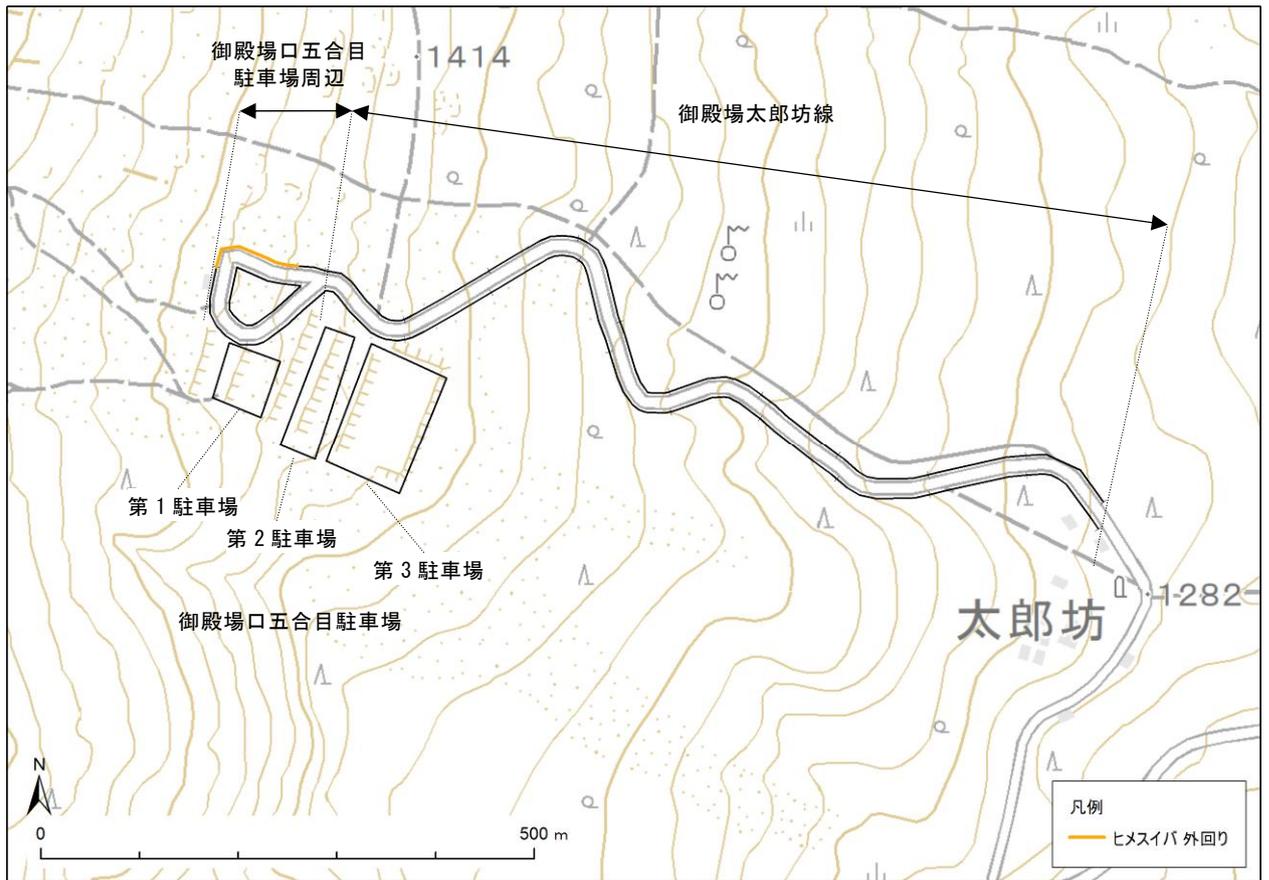


図 2.2.5 ヒメスイバの確認位置図 (②御殿場口登山道沿い標高 1,500m 付近から御殿場太郎坊線)

2) ハルザキヤマガラシ (アブラナ科)

ハルザキヤマガラシの種の解説を以下に示す。

表 2.2.11 種の解説 (ハルザキヤマガラシ)

種名等 ¹⁾	ハルザキヤマガラシ (アブラナ科) 別名・流通名：セイヨウヤマガラシ
カテゴリ	生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種 (その他の総合対策外来種)
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	II. 生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、またはその可能性が高い。 IV. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の要件 ¹⁾	
特に問題になる地域や環境 ¹⁾	亜高山帯、河川敷
原産地・分布 ¹⁾	原産地不明。ヨーロッパ、アジア、オーストラリア、北アメリカなどに広く分布する。日本へは明治時代末年に渡来、1960年頃に野生化、北海道、本州、四国、九州に分布。
特徴 ¹⁾	越年草～短命な多年草。高さは20-90cm。花期は5月。長角果は風、雨、動物、人間により伝播される。1個体辺りの種子生産量は40,000-116,000個との報告がある。根茎により繁殖する。
生育環境等 ¹⁾	川岸、用水路端、畦畔、牧草地、畑地、水田、荒地、道端のほか、山地の林道沿いにもみられる。冷涼で日当たりがよく、湿った肥沃地を好む。標高1,800m以上の亜高山帯に生育している事例もある。
影響 ³⁾	八ヶ岳中信高原国定公園にある霧ヶ峰では、ハルザキヤマガラシが増加し、在来種と競合のおそれがあるため、駆除作業が行われている。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報 (根拠情報) <植物>
環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 3) 要注意外来生物リスト 要注意外来生物に係る情報及び注意事項 <植物>

環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/caution.html>)

ハルザキヤマガラシは、富士山スカイラインの下り線で1区画3地点41個体を確認した。確認地点の環境は、道路脇の草地であった。6月調査時は植被は少なくハルザキヤマガラシが目立つが、9月調査時には成長したイタドリに覆われ、目立たなくなっていた。6月調査時に開花、9月調査時に結実を確認した。

表 2.2.12 ハルザキヤマガラシ確認結果

科名	種名	外来生物法 注1)	生態系 被害防 止注2)	確認数量 [区画数] <地点数> (個体数)											
				富士宮口五合 目駐車場内・周辺		富士山スカイ ライン		御殿場口五合 目駐車場			御殿場口五合 目駐車場周辺		御殿場太郎坊 線		合計
				内回り	外回り	上り線	下り線	第1	第2	第3	内回り	外回り	上り線	下り線	
アブラナ	ハルザキヤマ ガラシ	-	その他	-	-	-	[1] <3> (41)	-	-	-	-	-	-	-	[1] <3> (41)

注1) 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平成16年6月2日法律第78号)

注2) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)(平成27年3月26日公表)

その他: 総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種) その他の総合対策外来種

表 2.2.13 ハルザキヤマガラシの確認状況



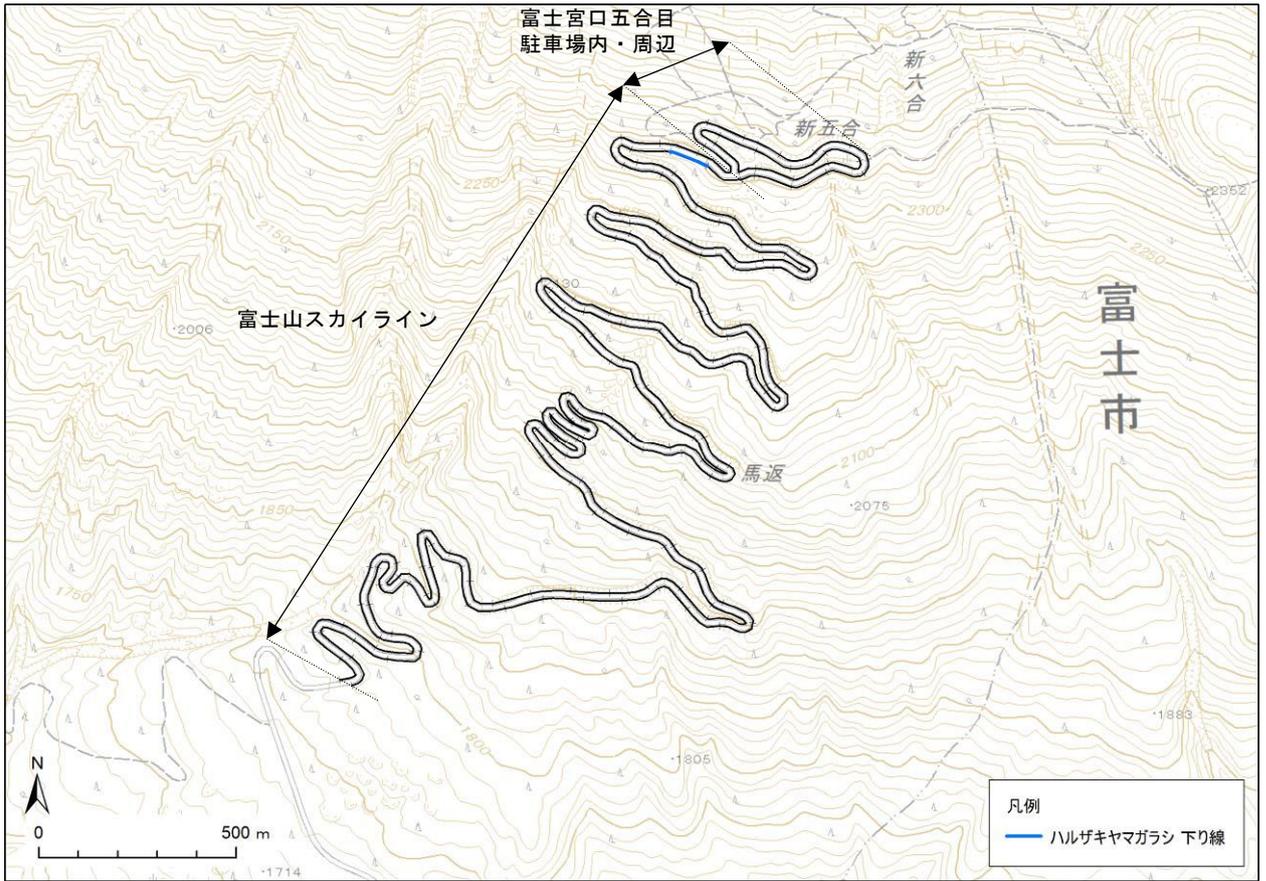


図 2.2.6 ハルザキヤマガラシの確認位置図 (①富士宮口登山道沿い標高 2,500m 付近から富士山スカイライン)

3) ヒメジョオン (キク科)

ヒメジョオンの種の解説を以下に示す。

表 2.2.14 種の解説 (ヒメジョオン)

種名等 ¹⁾	ヒメジョオン (キク科) 別名・流通名：-
カテゴリ	生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種 (その他の総合対策外来種)
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	II. 生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、またはその可能性が高い。 IV. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の要件 ¹⁾	
特に問題になる地域や環境 ¹⁾	山地や亜高山帯の草原
原産地・分布 ¹⁾	北アメリカ原産。ヨーロッパ、アジアに分布。国内へは江戸時代末期に渡来、明治初年には広く分布。北海道～九州に分布。
特徴 ^{1), 3)}	一年草。高さ 30-150cm。花期は 6-10 月。瘦果は、風、雨、動物、人間により伝播される。1 個体当たりの種子生産量は 47,923 個に及ぶとの報告がある。種子の寿命が 35 年にも及ぶとの報告がある。根茎により繁殖する。
生育環境等 ¹⁾	畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地などに生育する。土壌の種類を選ばない。低地から高山地帯まで生える。
影響 ¹⁾	農耕地の雑草になるとともに、国立公園の亜高山帯のような自然性の高い環境にも侵入する。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報 (根拠情報) <植物>
環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 3) 要注意外来生物リスト 要注意外来生物に係る情報及び注意事項 <植物>

環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/caution.html>)

ヒメジョオンは、富士山スカイラインの上り線で5区画5地点9個体、下り線で2区画2地点2個体、御殿場口五合目駐車場第一駐車場で1地点1個体、御殿場口五合目駐車場周辺で1区画7地点14個体、御殿場太郎坊線で4区画10地点35個体、下り線で4区画5地点9個体、計16区画30地点70個体を確認した。

確認地点の環境は路傍、道路脇の草地等であった。7月調査時に開花を確認した。富士山スカイラインに比べ標高が低い御殿場市側で確認個体数が多かった。

表 2.2.15 ヒメジョオン確認結果

科名	種名	外来生物法 注1)	生態系 被害防 止 注2)	確認数量 [区画数] <地点数> (個体数)											
				富士宮口五合 目駐車場内・周辺		富士山スカイ ライン		御殿場口五合 目駐車場			御殿場口五合 目駐車場周辺		御殿場太郎坊 線		合計
				内回り	外回り	上り線	下り線	第1	第2	第3	内回り	外回り	上り線	下り線	
キク	ヒメジョオン	-	その他	-	-	[5] <5> (9)	[2] <2> (2)	<1> (1)	-	-	[1] <7> (14)	-	[4] <10> (35)	[4] <5> (9)	[16] <30> (70)

注1) 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平成16年6月2日法律第78号)

注2) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)(平成27年3月26日公表)
 その他: 総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種) その他の総合対策外来種

表 2.2.16 ヒメジョオン確認状況



御殿場太郎坊線下り線区画 No. 8

(平成30年7月18日撮影)

御殿場太郎坊線下り線区画 No. 8

(平成30年7月18日撮影)

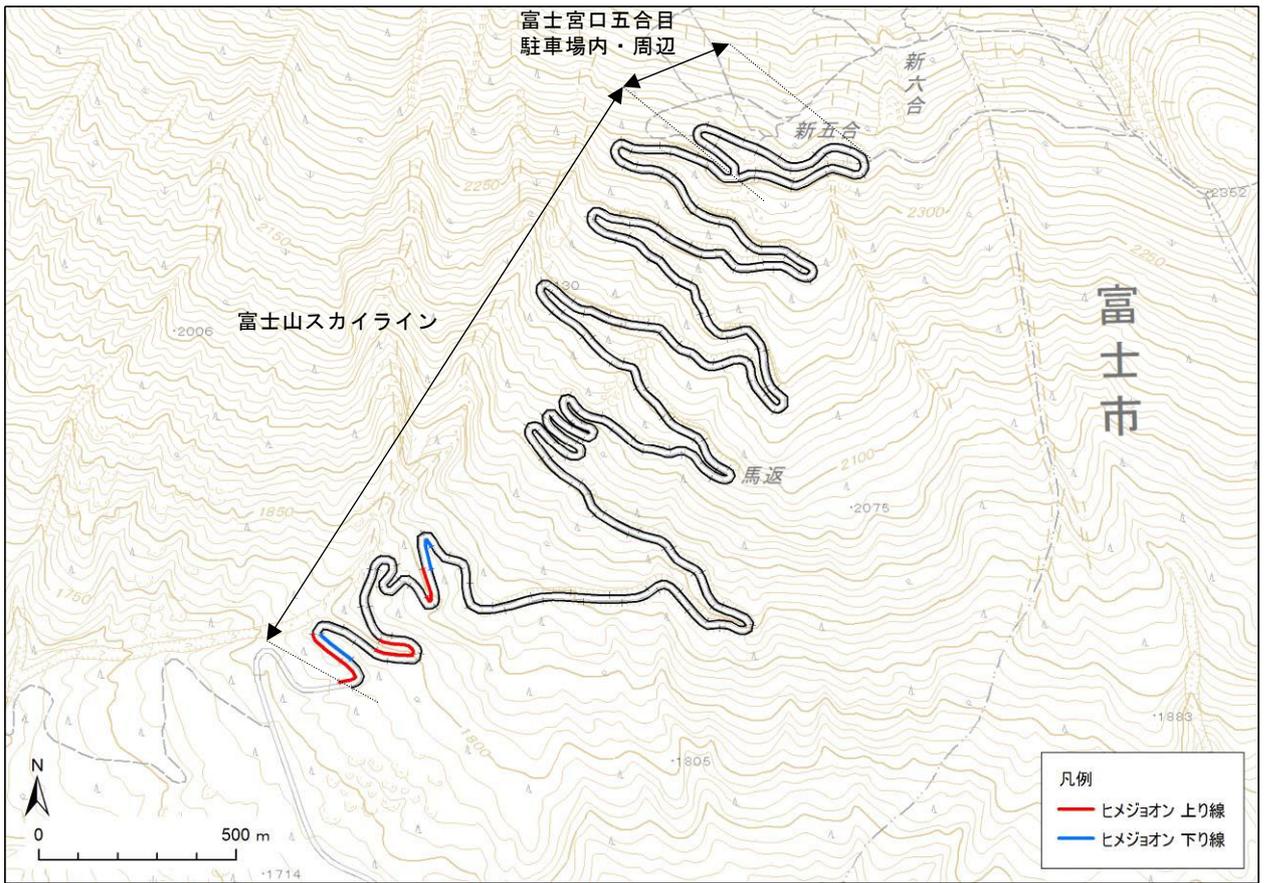


図 2.2.7 ヒメジョオンの確認位置図 (①富士宮口登山道沿い標高 2,500m 付近から富士山スカイライン)

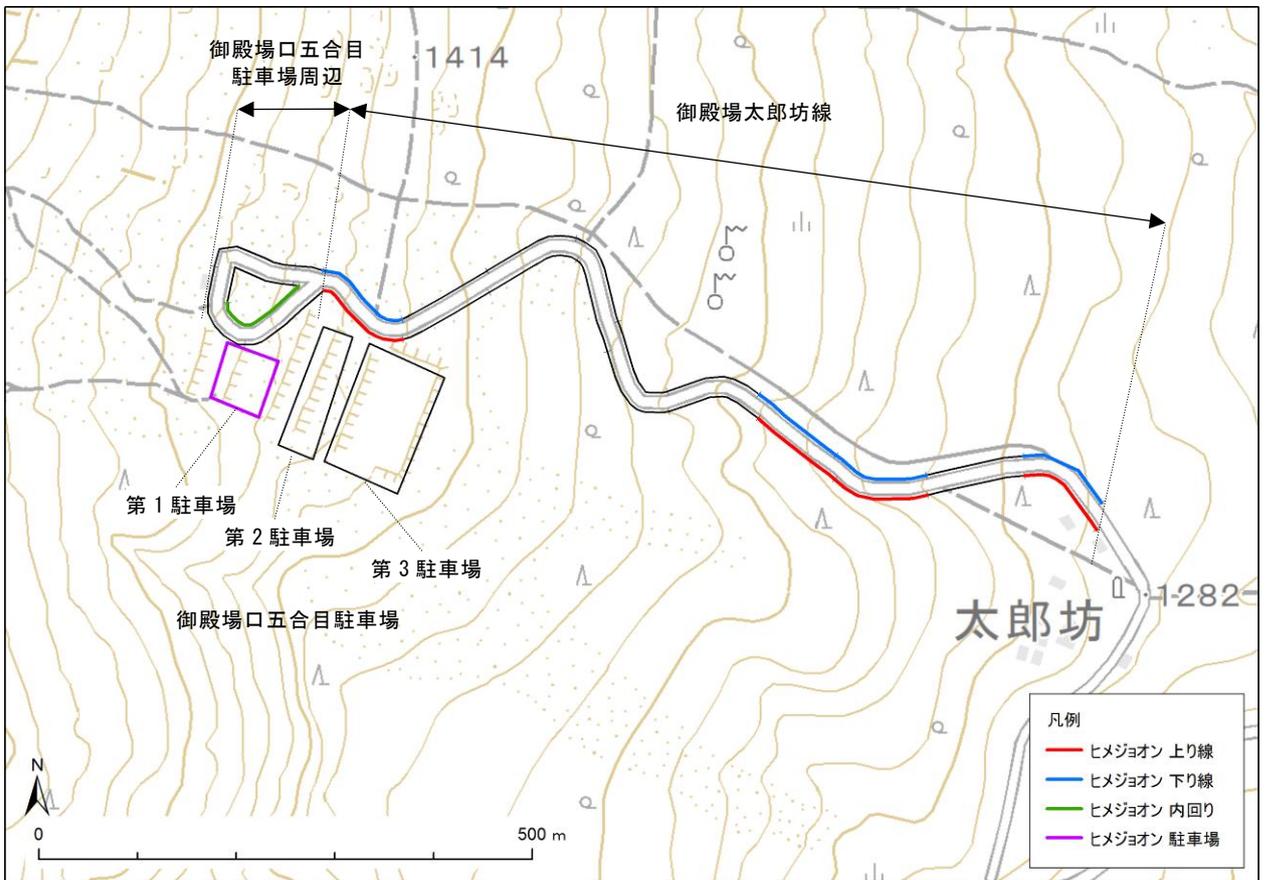


図 2.2.8 ヒメジョオンの確認位置図 (②御殿場口登山道沿い標高 1,500m 付近から御殿場太郎坊線)

4) ハルガヤ（イネ科）

ハルガヤの種の解説を以下に示す。

表 2.2.17 種の解説（ハルガヤ）

種名等 ¹⁾	ハルガヤ（イネ科） 別名・流通名：スイートバーナルグラス
カテゴリ	生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種（その他の総合対策外来種）
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	IV. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の要件 ¹⁾	
特に問題になる地域や環境 ¹⁾	里草地や山地草原。
原産地・分布 ¹⁾	ヨーロッパ～シベリア原産。アフリカ、アジア、オセアニア、南北アメリカ等、温帯に分布。オーストラリア、南米等で侵略的。国内へは明治初年に入り、北海道～九州、四国に分布。寒冷地に多い。
特徴 ^{1), 7)}	短命な多年草。茎は高さ 20-70cm になり、繊細で直立し、全体に多少の開出毛がある。開花期は 5-7 月。クマリンの香りがある。
生育環境 ¹⁾	牧草地、放牧地、路傍、荒地、草地、河原、森林に生育し、山地にまでみられる。日当たり 良い所を好み、土壌の種類を選ばない。耐寒性、耐旱性があり、春先の生育が早い。
影響 ¹⁾	里山の二次草原や山地の草原に侵入し、在来種と競合し、駆逐する。 耐寒性があり、山地にまでみられることから、自然性の高い草原へ侵入し、在来種と競合し、駆逐することが懸念される。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>

環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 7) 大橋広好, 門田裕一, 木原浩, 邑田仁, 米倉浩司 (2016) 改訂新版日本の野生植物 2 イネ科～イラクサ科, 平凡社.

ハルガヤは、御殿場口駐車場のうち第2駐車場で4地点310個体、第3駐車場で2地点2個体を確認した。確認地点の環境は駐車場脇の草地であった。6月調査時に開花・結実を確認した。

表 2.2.18 ハルガヤ確認結果

科名	種名	外来生物法 注1)	生態系被害防止 注2)	確認数量 [区画数] <地点数> (個体数)											
				富士宮口五合目駐車場内・周辺		富士山スカイライン		御殿場口五合目駐車場			御殿場口五合目駐車場周辺		御殿場太郎坊線		合計
				内回り	外回り	上り線	下り線	第1	第2	第3	内回り	外回り	上り線	下り線	
イネ	ハルガヤ	-	その他	-	-	-	-	-	<4> (310)	<2> (2)	-	-	-	-	<6> (312)

注1) 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平成16年6月2日法律第78号)

注2) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)(平成27年3月26日公表)

その他: 総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種) その他の総合対策外来種

表 2.2.19 ハルガヤ確認状況



御殿場口五合目駐車場第3駐車場
(平成30年6月13日撮影)



御殿場口五合目駐車場第3駐車場
(平成30年6月13日撮影)

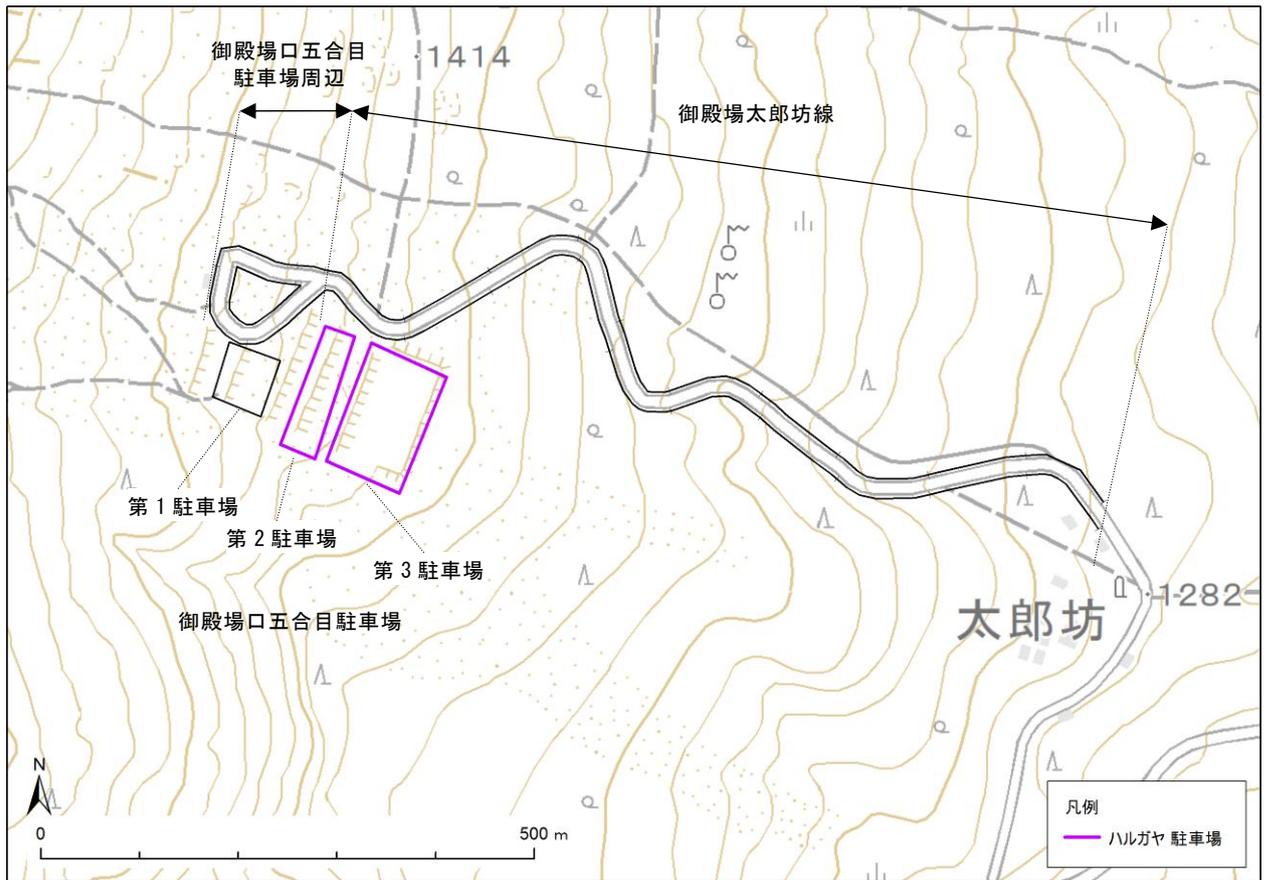


図 2.2.9 ハルガヤの確認位置図 (②御殿場口登山道沿い標高 1,500m 付近から御殿場太郎坊線)

5) カモガヤ（イネ科）

カモガヤの種の解説を以下に示す。

表 2.2.20 種の解説（カモガヤ）

種名等 ¹⁾	カモガヤ（イネ科） 別名・流通名：オーチャードグラス
カテゴリ	生態系被害防止外来種リスト：産業管理外来種
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	II. 生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、またはその可能性が高い。 IV. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の要件 ¹⁾	
特に問題になる地域や環境 ¹⁾	山地草原
原産地・分布 ¹⁾	地中海～西アジア原産。ヨーロッパ、アフリカ、アジア、オセアニア、南北アメリカ等の温帯に分布。国内へは 1861～1864 年（文久年間）に渡来。1868 年（明治初年）にアメリカから導入。北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。
特徴 ^{1), 3)}	多年草。高さ 0.4～1.5m。開花期は 7～8 月。種子の生産量は多く、風、雨、人間、動物に付着して運ばれるほか、家畜に食べられても生存し、糞に伴って遠方に運ばれる場合がある。土壌中における種子の生存期間は 4 年以上に及ぶ。根茎により繁殖するが、根茎は短く匍匐茎を伸ばさない。再生力は旺盛である。
生育環境 ¹⁾	畑地、樹園地、路傍、荒地、土手、草地、河川敷、林縁、湿地、沿岸域等に生育する。日当たりの良い温暖地で、肥沃な所を好むが、環境適応性は幅広い。耐陰性が強いことが特徴である。
影響 ¹⁾	里山の二次草原や、亜高山帯や山地の国立公園の自然草原で、在来種と競合し、駆逐する。攪乱された場所で密生し、在来の草本植物を抑制する。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>
環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 3) 要注意外来生物リスト 要注意外来生物に係る情報及び注意事項 <植物>
環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/caution.html>)

カモガヤは、富士宮口五合目駐車場内・周辺で1区画、1地点3個体、富士山スカイラインで8区画14地点108個体、御殿場口五合目駐車場第2駐車場で4地点7個体、計9区画19地点118個体を確認した。確認地点の環境は道路脇の林縁、草地等であった。6月、7月、9月調査時に開花・結実を確認した。

表 2.2.21 カモガヤ確認結果

科名	種名	外来生物法 注1)	生態系 被害防 止注2)	確認数量 [区画数] <地点数> (個体数)											
				富士宮口五合 目駐車場内・周辺		富士山スカイ ライン		御殿場口五合 目駐車場			御殿場口五合 目駐車場周辺		御殿場太郎坊 線		合計
				内回り	外回り	上り線	下り線	第1	第2	第3	内回り	外回り	上り線	下り線	
イネ	カモガヤ	-	産業	[1] <1> (3)	-	[7] <13> (98)	[1] <1> (10)	-	<4> (7)	-	-	-	-	-	[9] <19> (118)

注1) 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平成16年6月2日法律第78号)

注2) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)(平成27年3月26日公表)
産業: 適切な管理が必要な産業上重要な外来種(産業管理外来種)

表 2.2.22 カモガヤ確認状況



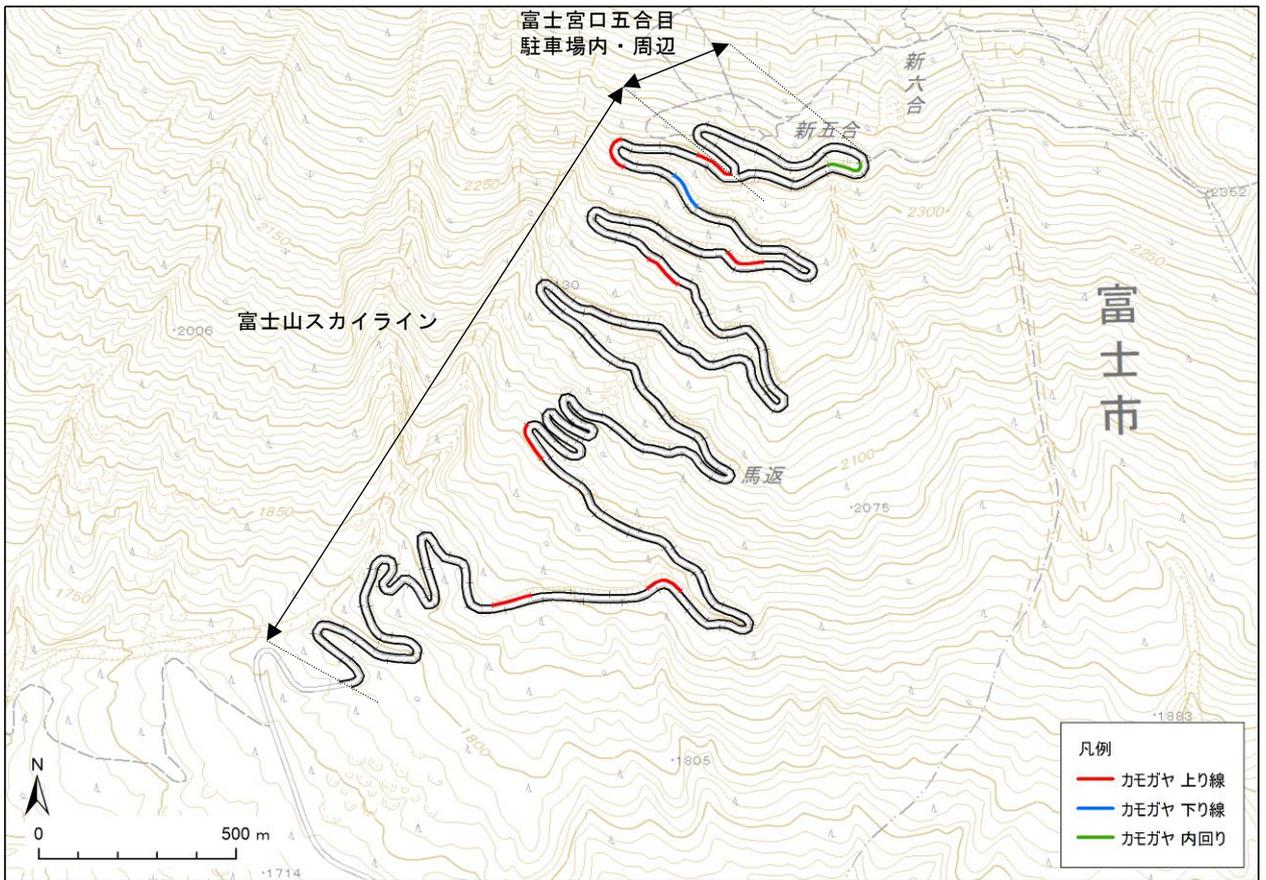


図 2.2.10 カモガヤの確認位置図 (①富士宮口登山道沿い標高 2,500m 付近から富士山スカイライン)

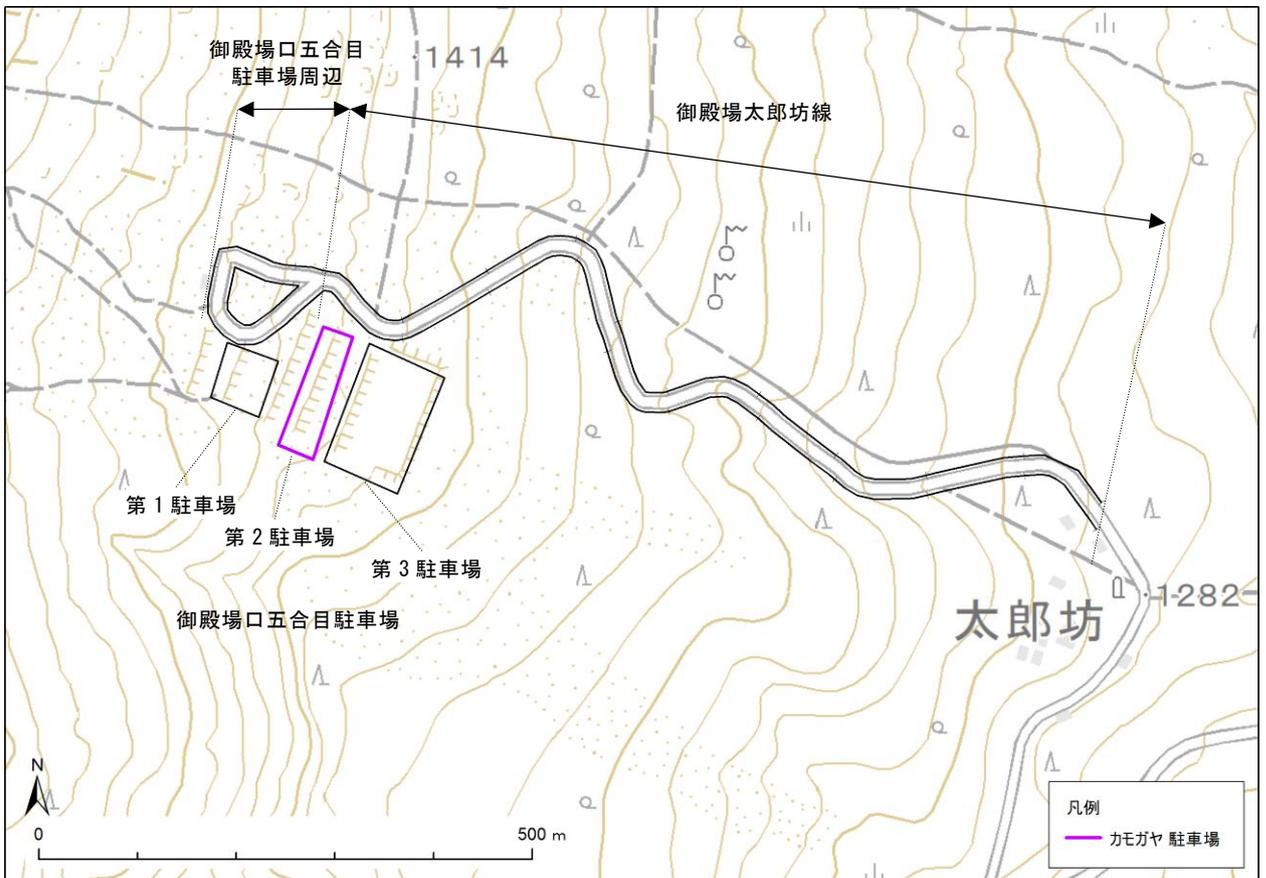


図 2.2.11 カモガヤの確認位置図 (②御殿場口登山道沿い標高 1,500m 付近から御殿場太郎坊線)

6) ナギナタガヤ（イネ科）

ナギナタガヤの種の解説を以下に示す。

表 2.2.23 種の解説（ナギナタガヤ）

種名等 ¹⁾	ナギナタガヤ（イネ科） 別名・流通名：ネズミノシッポ
カテゴリ	生態系被害防止外来種リスト：産業管理外来種
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	IV. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の要件 ¹⁾	
特に問題になる地域や環境 ¹⁾	海岸砂地、草原
原産地・分布 ¹⁾	ヨーロッパ～西アジア原産。アフリカ、アジア、オーストラリア、南北アメリカ、大西洋諸島、太平洋諸島などの温帯～暖帯に分布する。オーストラリアでは侵略的である。日本へは、明治初年に入り、北海道、本州、四国、九州、琉球に分布する。
特徴 ^{1), 7)}	一年草。高さ 60cm。株立ちとなって根茎がなく、全体に粉緑色をおびる。花期は 5-6 月。
生育環境等 ¹⁾	畑地、牧草地、庭、路傍、荒地などに生育する。日当たりの良い砂質土壌を好む。海辺の砂地、乾いた草地に多い。
影響 ¹⁾	海外で侵略的な外来種とされ、日本でも河川等で分布を拡大している。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物> 環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 7) 大橋広好, 門田裕一, 木原浩, 邑田仁, 米倉浩司(2016)改訂新版日本の野生植物 2 イネ科～イラクサ科, 平凡社.

ナギナタガヤは、御殿場口五合目駐車場のうち第1駐車場で1地点50個体、第2駐車場で1地点100個体、第3駐車場で7地点590個体、計9地点740個体を確認した。確認地点の環境は駐車場脇の草地であった。6月調査時に開花・結実を確認した。

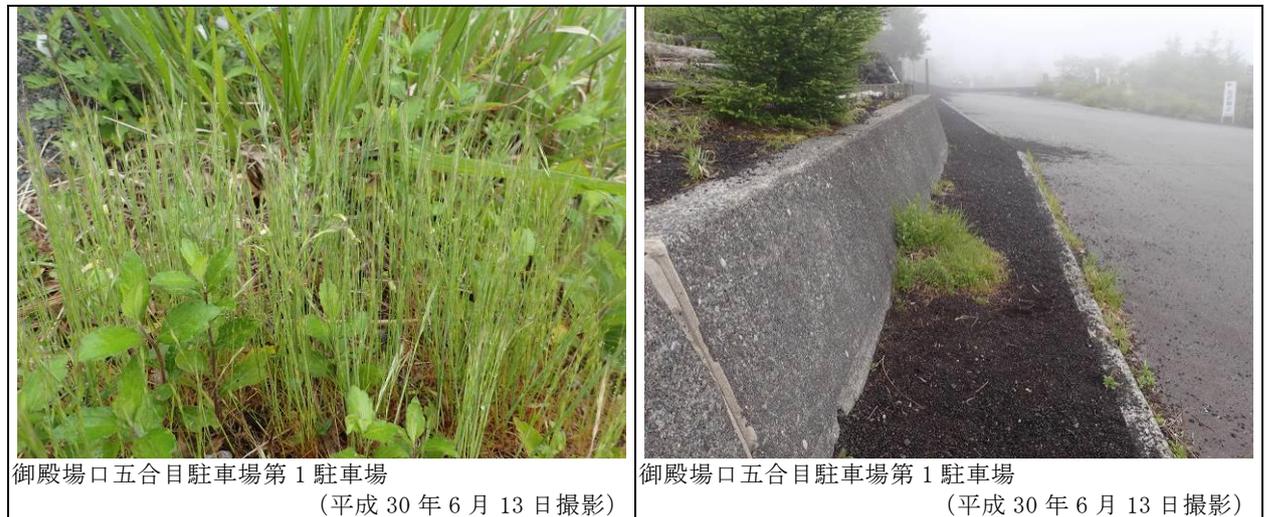
表 2.2.24 ナギナタガヤ確認結果

科名	種名	外来生物法 注1)	生態系被害防 止注2)	確認数量 [区画数] <地点数> (個体数)											
				富士宮口五合目駐車場内・周辺		富士山スカイライン		御殿場口五合目駐車場			御殿場口五合目駐車場周辺		御殿場太郎坊線		合計
				内回り	外回り	上り線	下り線	第1	第2	第3	内回り	外回り	上り線	下り線	
イネ	ナギナタガヤ	-	産業	-	-	-	-	<1> (50)	<1> (100)	<7> (590)	-	-	-	-	<9> (740)

注1) 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平成16年6月2日法律第78号)

注2) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)(平成27年3月26日公表)
産業: 適切な管理が必要な産業上重要な外来種(産業管理外来種)

表 2.2.25 ナギナタガヤ確認状況



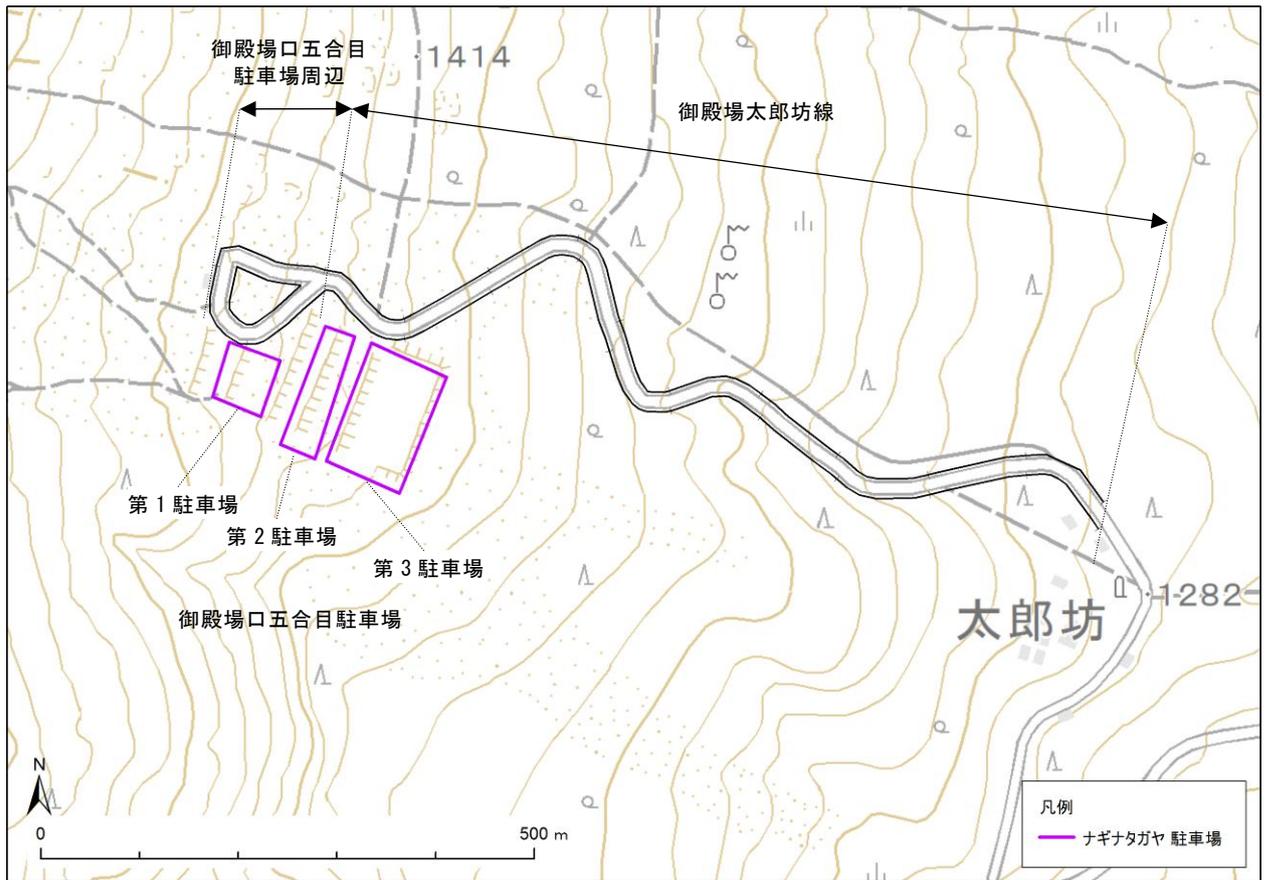


図 2. 2. 12 ナギナタガヤの確認位置図 (②御殿場口登山道沿い標高 1, 500m 付近から御殿場太郎坊線)

7) オオアワガエリ

オオアワガエリの種の解説を以下に示す

表 2.2.26 種の解説（オオアワガエリ）

種名等 ¹⁾	オオアワガエリ（イネ科） 別名・流通名：チモシー
カテゴリ	生態系被害防止外来種リスト：産業管理外来種
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	II. 生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、またはその可能性が高い。 IV. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の要件 ¹⁾	
特に問題になる地域や環境 ¹⁾	亜高山帯や山地の草原。
原産地・分布 ¹⁾	ヨーロッパからシベリア原産。ヨーロッパ、アジア、オセアニア、北アメリカ、南アメリカの温帯に分布する。日本へは明治初期に入り、北海道、本州、四国、九州に分布。高標高地に多い。
特徴 ^{1), 3)}	多年草。高さ 50-100cm。開花期は 6-8 月。両性花。風媒花。茎の基部節間が肥大した球茎により繁殖する。
生育環境等 ¹⁾	畑地、樹園地、路傍、荒地に生育する。冷涼で多湿の気候を好み、肥沃な日当たりの良いところに多い。
影響 ^{1), 3)}	自然草原への侵入が問題となっている。北海道や、本州の亜高山帯にある国立・国定公園など、自然性の高い環境や希少種の生育環境に侵入し、駆除の対象となっている。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>
環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 3) 要注意外来生物リスト 要注意外来生物に係る情報及び注意事項 <植物>

環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/caution.html>)

オオアワガエリは、富士山スカイラインの上り線で17区画28地点338個体、下り線で12区画14地点75個体、計29区画42地点413個体を確認した。確認地点の環境は道路脇の草地等であった。7月、9月調査時に開花・結実を確認した。

表 2.2.27 オオアワガエリ確認結果

科名	種名	外来生物法 注1)	生態系 被害防 止注2)	確認数量 [区画数] <地点数> (個体数)											
				富士宮口五合 目駐車場内・周辺		富士山スカイ ライン		御殿場口五合 目駐車場			御殿場口五合 目駐車場周辺		御殿場太郎坊 線		合計
				内回り	外回り	上り線	下り線	第1	第2	第3	内回り	外回り	上り線	下り線	
イネ	オオアワ ガエリ	-	産業	-	-	[17] <28> (338)	[12] <14> (75)	-	-	-	-	-	-	-	[29] <42> (413)

注1) 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平成16年6月2日法律第78号)

注2) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)(平成27年3月26日公表)
産業: 適切な管理が必要な産業上重要な外来種(産業管理外来種)

表 2.2.28 オオアワガエリ確認状況



富士山スカイライン上り線区画No.52
(平成30年7月18日撮影)



富士山スカイライン上り線区画No.52
(平成30年7月18日撮影)

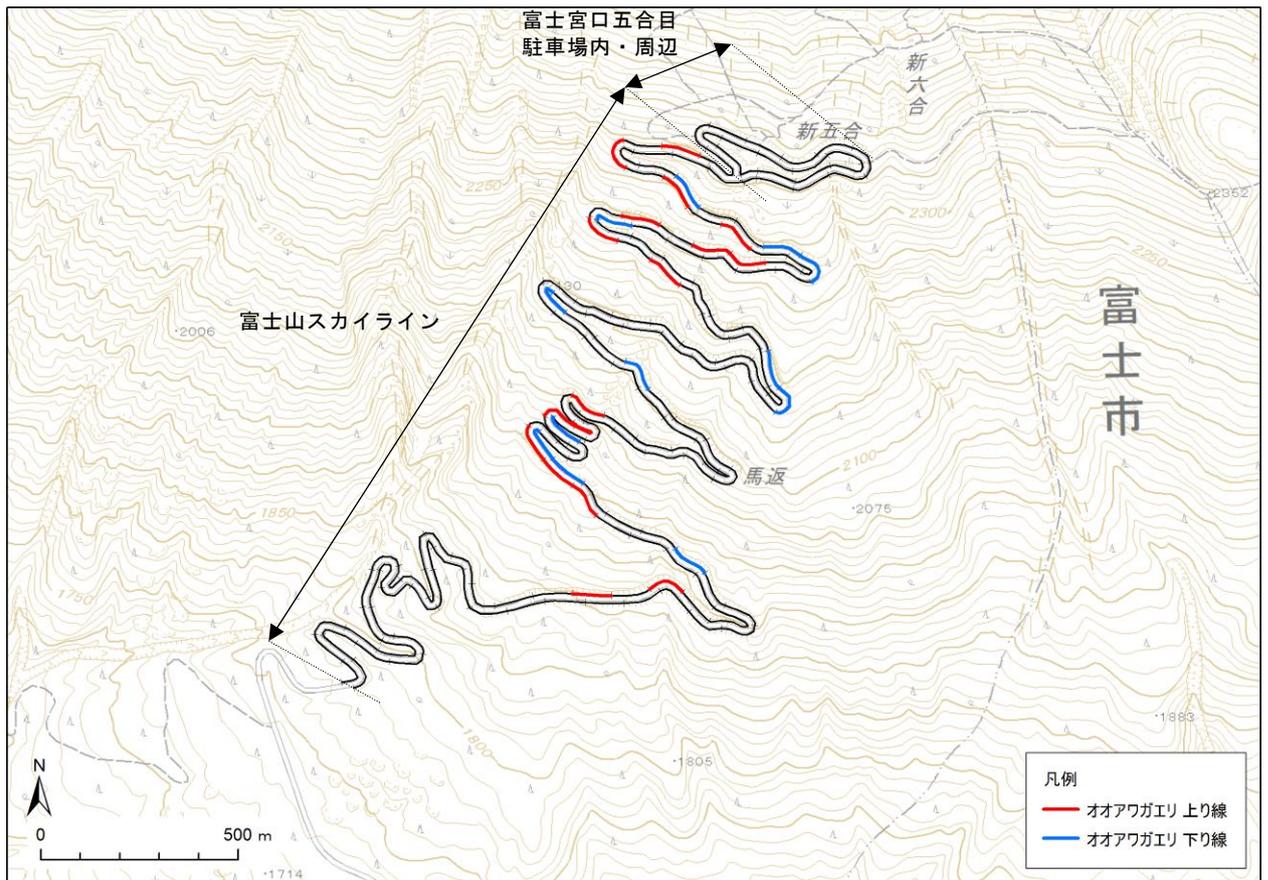


図 2. 2. 13 オオアワガエリの確認位置図 (①富士宮口登山道沿い標高 2, 500m 付近から富士山スカイライン)